

Silk Test 14.0

リリースノート

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © Micro Focus 2013. All rights reserved. Silk Test は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2013 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2013-05-28

目次

Silk Test 14.0 リリース ノート	5
Silk Test の新機能	6
すべてのクライアント	6
Mozilla Firefox のサポート	6
Google Chrome のサポート	6
Rumba 9.0 のサポート	6
SAPGUI クライアント 7.30	6
テスト対象アプリケーションの静的メソッドの呼び出し	6
ユーザビリティの改善	7
Silk Test Workbench	7
イメージ解決のサポート	7
テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロール	7
Microsoft SQL Server 2012 SP1 のサポート	7
スクリプトから資産を開く	7
Locator Spy でのすべての属性の表示	8
検証資産のフィルタリング	8
Silk Test Classic	8
アプリケーションの構成ワークフローの強化	8
Silk4NET	8
イメージ解決のサポート	8
Silk4NET のオブジェクト マップ	8
Silk4NET の新しいスタート ページ	8
スクリプトから資産を開く	9
テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロール	9
Locator Spy でのすべての属性の表示	9
Silk4NET の Web ベースのトレーニング	9
Silk4NET でのワンクリック ブラウザ切り替え	9
Silk4J の新機能	9
イメージ解決のサポート	9
Silk4J のオブジェクト マップ	10
スクリプトから資産を開く	10
テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロール	10
Locator Spy でのすべての属性の表示	10
Silk4J の Web ベースのトレーニング	10
Silk4J でのワンクリック ブラウザ切り替え	10
Silk Test 製品スイート	11
ライセンス情報	12
システム要件および前提条件	13
ハードウェア要件	13
ソフトウェア要件	13
プラットフォーム サポート	13
Adobe Flex のサポート	14
Java のサポート	14
Silk Test Classic の DSN サポート	15
インストール手順	16
既知の問題	17

全般的な問題	17
Google Chrome	18
Internet Explorer	20
Mozilla Firefox	20
SAP アプリケーション	21
Silk Test Classic	22
Silk Test Workbench	22
Silk4NET	24
Silk4J	25
解決済みの問題	27
サポート終了コンポーネント	29
Silk Test 14.0 の EOL コンポーネント	29
次のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント	29
次のリリース後のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント	30

Silk Test 14.0 リリースノート

このファイルでは、ヘルプには表示されない場合もある重要な情報について説明します。このファイル全体をお読みください。

このドキュメントの最新バージョンについては、<http://supportline.microfocus.com/productdoc.aspx>を参照してください。

カスタマー ケアからサポートを受けるには、supportline.microfocus.com に移動してください。

Silk Test の新機能

このセクションでは、Silk Test に対して行われた重要な改善と変更を示します。
Silk Test 14.0 では、以下の機能をサポートしています。

すべてのクライアント

すべてのクライアントで、以下の機能が新しくなりました。

Mozilla Firefox のサポート

Silk Test では現在、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートしています。

- Mozilla Firefox 17
- Mozilla Firefox 18
- Mozilla Firefox 19
- Mozilla Firefox 20
- Mozilla Firefox 21

Google Chrome のサポート

Silk Test では現在、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートしています。

- Google Chrome 22
- Google Chrome 23
- Google Chrome 24
- Google Chrome 25
- Google Chrome 26
- Google Chrome 27

Rumba 9.0 のサポート

Silk Test は、Rumba 9.0 をサポートするようになりました。

SAPGUI クライアント 7.30

Silk Test は、SAPGUI クライアント 7.30 をサポートするようになりました。

テスト対象アプリケーションの静的メソッドの呼び出し

テスト対象アプリケーションの基になるオブジェクトが定義するすべてのメソッドを動的に呼び出せることに加えて、Windows Forms または WPF コントロールでは、テスト対象アプリケーションのオブジェクトで定義されたすべての静的メソッドと、すべてのユーザー定義の静的メソッドを動的に呼び出せるようになりました。

ユーザビリティの改善

属性名の大文字と小文字の区別を一致させるかどうかを定義可能

新しい `OPT_LOCATOR_ATTRIBUTES_CASE_SENSITIVE` オプションを使用して、属性名の大文字と小文字の区別を一致させるかどうかを指定します。デフォルト設定では、大文字と小文字が区別されます。

新しい Borland YouTube チャンネル

新しい [YouTube の Borland チャンネル](#) にアクセスして、Silk Test に関するビデオを観ることができるようになりました。

Silk Test コミュニティーの Silk Test ナレッジ ベース

[Silk Test Knowledge Base](#) が Silk Test コミュニティーに含まれるようになりました。Silk Test に関する質問がある場合は、Silk Test コミュニティーの詳細検索機能を使用して答えを見つけることができるようになりました。

Silk Test Workbench

Silk Test Workbench で、以下の機能が新しくなりました。

イメージ解決のサポート

イメージ解決メソッドでは、オブジェクト解決またはテキスト解決で識別できない、高度にカスタマイズされたコントロールを含むテスト アプリケーションを便利に操作できます。相対座標でのクリックの代わりにイメージクリックを使用して、特定イメージをクリックできます。また、テスト対象アプリケーションの UI にあるオブジェクトのイメージ表現を使用して、オブジェクトが存在し、予想通りに表示されることを確認できます。

テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロールをテストする

WPF Windows Forms アプリケーションをテストする場合、テスト対象アプリケーション (AUT) の実際のコントロールを操作する静的メソッドを含むコードを追加できます。このコードをスクリプトの再生時に AUT に挿入することも、コードを AUT にコンパイルすることもできます。その後、このコードを再生時にスクリプトから呼び出し、カスタム コントロールを操作できます。

Microsoft SQL Server 2012 SP1 のサポート

Silk Test Workbench では、Microsoft SQL Server 2012 Service Pack 1 (SP1) がサポートされるようになりました。

スクリプトから資産を開く

スクリプトを編集しているときに、資産を右クリックして **資産を開く** を選択し、資産を開くことができます。これにより、GUI で資産が開きます。

Locator Spy でのすべての属性の表示

Locator Spy のロケーター属性テーブルには、ロケーターで使用できるすべての属性が表示されるようになりました。Web アプリケーションの場合は、記録中に無視するように定義したすべての属性もこのテーブルに含まれるようになりました。

検証資産のフィルタリング

検証資産を **結果** ウィンドウのツールバーからフィルタリングできるようになりました。

Silk Test Classic

Silk Test Classic で、以下の機能が新しくなりました。

アプリケーションの構成ワークフローの強化

Open Agent でアプリケーション構成を作成するときに、テスト対象アプリケーションの基本状態を追加で作成するか、テスト対象アプリケーションをフックするだけかを指定できます。基本状態を作成しないことで、複雑なテストシナリオや、複数のアプリケーションをテストする場合に、効率的でわかりやすくなる場合があります。

Silk4NET

Silk4NET で、以下の機能が新しくなりました。

イメージ解決のサポート

イメージ解決メソッドでは、オブジェクト解決またはテキスト解決で識別できない、高度にカスタマイズされたコントロールを含むテストアプリケーションを便利に操作できます。相対座標でのクリックの代わりにイメージクリックを使用して、特定イメージをクリックできます。また、テスト対象アプリケーションの UI にあるオブジェクトのイメージ表現を使用して、オブジェクトが存在し、予想通りに表示されることを確認できます。

Silk4NET のオブジェクト マップ

Silk4NET でオブジェクトマップを使用できるようになりました。オブジェクトマップはテスト資産の一種であり、コントロールまたはウィンドウのロケーターではなく、コントロールまたはウィンドウに論理名 (エイリアス) を関連付ける項目が含まれています。コントロールがオブジェクトマップ資産に登録されると、スクリプトでのそのコントロールに対する参照はすべて、実際のロケーター名ではなく、そのエイリアスによって行われます。

Silk4NET の新しいスタート ページ

Silk4NET を開始すると表示される新しいスタート ページをエン트리 ポイントとして使用し、Silk4NET で使用できる機能を見つけてことができます。このスタート ページを使用して、以下のオプションから選択し、処理を進めることができます。

- 新機能のリストを表示する。
- 共通の Silk4NET 機能に直接アクセスする。
- よく使用される機能に関するビデオを表示する。

- サンプルプロジェクトを開く。
- Silk4NET の操作を開始する方法が説明されているヘルプ トピックにアクセスする。
- リンクされているリソースを表示して、追加サポートとトレーニングを確認する。
- Silk Test コミュニティーで最新のフォーラム項目とブログ投稿を表示する。

スタート ページは、そのページを閉じるか、**スタートアップ時に開始画面を表示する** オプションを選択解除するまで開かれたままになります。

スクリプトから資産を開く

スクリプトを編集しているときに、資産を右クリックして **資産を開く** を選択し、資産を開くことができます。これにより、GUI で資産が開きます。

テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロールをテストする

WPF Windows Forms アプリケーションをテストする場合、テスト対象アプリケーション (AUT) の実際のコントロールを操作する静的メソッドを含むコードを追加できます。このコードをスクリプトの再生時に AUT に挿入することも、コードを AUT にコンパイルすることもできます。その後、このコードを再生時にスクリプトから呼び出し、カスタム コントロールを操作できます。

Locator Spy でのすべての属性の表示

Locator Spy のロケーター属性テーブルには、ロケーターで使用できるすべての属性が表示されるようになりました。Web アプリケーションの場合は、記録中に無視するように定義したすべての属性もこのテーブルに含まれるようになりました。

Silk4NET の Web ベースのトレーニング

Silk4NET の新しい無料 Web ベース トレーニングは、[Micro Focus Training Store](#) で入手できます。

Silk4NET でのワンクリック ブラウザ切り替え

テスト再生とロケーター記録に使用されるブラウザの変更は、使用するブラウザのアイコンをクリックするだけで行えます。

Silk4J の新機能

Silk4J で、以下の機能が新しくなりました。

イメージ解決のサポート

イメージ解決メソッドでは、オブジェクト解決またはテキスト解決で識別できない、高度にカスタマイズされたコントロールを含むテスト アプリケーションを便利に操作できます。相対座標でのクリックの代わりにイメージ クリックを使用して、特定イメージをクリックできます。また、テスト対象アプリケーションの UI にあるオブジェクトのイメージ表現を使用して、オブジェクトが存在し、予想通りに表示されることを確認できます。

Silk4J のオブジェクト マップ

Silk4J でオブジェクト マップを使用できるようになりました。オブジェクト マップはテスト資産の一種であり、コントロールまたはウィンドウのロケータではなく、コントロールまたはウィンドウに論理名 (エイリアス) を関連付ける項目が含まれています。コントロールがオブジェクト マップ資産に登録されると、スクリプトでのそのコントロールに対する参照はすべて、実際のロケータ名ではなく、そのエイリアスによって行われます。

スクリプトから資産を開く

スクリプトを編集しているときに、資産を右クリックして **資産を開く** を選択し、資産を開くことができます。これにより、GUI で資産が開きます。

テスト対象アプリケーションにコードを追加してカスタム WPF および Windows Forms コントロールをテストする

WPF Windows Forms アプリケーションをテストする場合、テスト対象アプリケーション (AUT) の実際のコントロールを操作する静的メソッドを含むコードを追加できます。このコードをスクリプトの再生時に AUT に挿入することも、コードを AUT にコンパイルすることもできます。その後、このコードを再生時にスクリプトから呼び出し、カスタム コントロールを操作できます。

Locator Spy でのすべての属性の表示

Locator Spy のロケータ属性テーブルには、ロケータで使用できるすべての属性が表示されるようになりました。Web アプリケーションの場合は、記録中に無視するように定義したすべての属性もこのテーブルに含まれるようになりました。

Silk4J の Web ベースのトレーニング

Silk4J の新しい無料 Web ベース トレーニングは、[Micro Focus Training Store](#) で入手できます。

Silk4J でのワンクリック ブラウザ切り替え

テスト再生とロケータ記録に使用されるブラウザの変更は、使用するブラウザのアイコンをクリックするだけで行えます。

Silk Test 製品スイート



Silk Test 製品スイートには、以下のコンポーネントが含まれています。

- Silk Test Workbench : Silk Test Workbench は、新しいネイティブ品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、より幅広い利用者がテストを行えるようにする使いやすいビジュアルテストが提供されます。
- Silk4NET : Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。
- Silk4J : Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。
- Silk Test Classic : Silk Test Classic は、従来の 4Test Silk Test 製品です。
- Silk Test Agent : Silk Test Agent は、テストのコマンドを GUI 固有のコマンドに変換するソフトウェア プロセスです。つまり、テストするアプリケーションをエージェントが動かす、監視しています。ホストマシン上で 1 つのエージェントをローカルに実行できます。ネットワーク環境では、任意の数のエージェントをリモート マシン上で実行できます。

ライセンス情報

評価版を使用している場合を除き、Silk Test を実行するにはライセンスが必要です。

ライセンス モデルは、使用しているクライアントとテストするアプリケーションをベースとします。利用可能なライセンス モデルは、次のアプリケーションの種類をサポートします。

ライセンス モデル	アプリケーションの種類
完全	<ul style="list-style-type: none">Web アプリケーション (以下を含む)<ul style="list-style-type: none">Adobe FlexJava アプレットAdobe FlexJava AWT/SwingJava SWT および Eclipse RCP.NET (Windows Forms および Windows Presentation Foundation (WPF) を含む)RumbaWindows API ベース <p> 注: 完全版にアップグレードするには、www.borland.com へ移動してください。</p>
プレミアム	<p>完全版でサポートされるすべてのアプリケーションの種類、および SAP アプリケーション。</p> <p> 注: プレミアム版にアップグレードするには、www.borland.com へ移動してください。</p>

システム要件および前提条件

以下のセクションでは、Silk Test をインストールして実行するためのシステム要件を示します。

ハードウェア要件

以下のハードウェア要件をお勧めします。

システム領域	要件
プロセッサ	Intel または AMD の DualCore プロセッサ (2 GHz)
RAM	2 GB
ハード ディスク領域	2 GB の空きディスク領域



注: 自作機 (ベアボーンキット、ショップブランド機を含む) は動作保証外です。

ソフトウェア要件

Silk Test をインストールして実行するには、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Microsoft .NET Framework 4 (フルセットアップ)

プラットフォーム サポート

プラットフォーム

Silk Test 14.0 は、以下のプラットフォームで実行するように設計されています。

- Microsoft Windows XP SP3
- Microsoft Windows Vista SP2*
- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows Server 2012

テクノロジー ドメインおよびブラウザ

Open Agent の場合、Silk Test 14.0 では以下のブラウザを使用するアプリケーション、または以下で開発されるアプリケーションがすべてサポートされています。

テクノロジーの種類	サポートされるバージョン
Adobe Flex	4.0、4.1、4.5.1、4.6
Mozilla Firefox (再生のみ)	10*、17、18*、19*、20*、21*

テクノロジーの種類	サポートされるバージョン
Google Chrome (再生のみ)	22*、23*、24*、25*、26*、27*
Internet Explorer	8、9、10
Java AWT/Swing	Java 1.6、Java 1.7
Java SWT	3.6、3.7
SAP	SAPGUI クライアント 7.10、SAPGUI クライアント 7.20、SAPGUI クライアント 7.30
Silverlight*	3 (Silverlight Runtime 4)、4 (Silverlight Runtime 4 および Silverlight Runtime 5)
Rumba	8.1、8.2、8.3、9.0
Win 32	任意
WinForms	.NET 3.0、3.5、3.5 SP1、4.0、4.5
WPF	.NET 3.5 SP1、4.0、4.5

データベース

Silk Test 14.0 では、Silk Test Workbench 資産の格納について、以下のデータベースがサポートされています。

- Microsoft SQL Server 2005 (SP3) + Express*
- Microsoft SQL Server 2008 (SP2) + Express
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Microsoft Access 2000 (シングルユーザー データベースとして)

Eclipse 環境

Eclipse 3.7.2 以降では Silk4J を統合できます。バージョン 3.7.2 は Silk Test に付属しています。

Visual Studio 環境

Visual Studio 2010 Professional 以降では Silk4NET を統合できます。

* これらのオペレーティング システム、機能、および統合は、今後の Silk Test バージョンでサポートされなくなる予定です。詳細については、「サポート終了コンポーネント」を参照してください。

Adobe Flex のサポート

Silk Test は、サポート対象のすべてのブラウザおよび Adobe AIR 2.0 以降 (Adobe Flex 4.x で作成) を使用した Adobe Flex 4.0、4.1、4.5.1、および 4.6 のテストをサポートしています。



注: Silk Test は、Adobe Flex を含めて、Google Chrome で実行する Web アプリケーションの子ドメイン テクノロジーのテストをサポートしていません。

Silk Test は Adobe Flash Player 10 以降をサポートしています。

Java のサポート

Silk Test では、Open Agent の以下の Java コンポーネントがサポートされています。

- SWT 3.6 および 3.7 スタンドアロンと Rich Client Platform (RCP) アプリケーション (ブラウザでアプレットとして実行される SWT スタンドアロン アプリケーションはサポートされていません)
- Java バージョン 1.6 および 1.7
- AWT
- Swing (Java Foundation Class を含む)
- アプレット (Internet Explorer および Mozilla Firefox)

Silk Test Classic の DSN サポート

Silk Test Classic のデータ ドリブン ワークフローは、以下をサポートします。

- テキスト ファイルおよびカンマ区切り値ファイル (*.txt ファイルおよび *.csv ファイル)
- MS Excel
- MS Access
- MS SQL Server
- Oracle (部分的なサポート)
- SyBase SQL Anywhere

Silk Test Classic は、ODBC を使用して上記のデータベースにアクセスするため、有効な ODBC ドライバを持つこれらのデータベースのバージョンをサポートします。



注: Silk Test Classic の **Select Data Source** ダイアログ ボックスで、Silk DDA Excel または Segue DDA Excel のいずれかのデータ ソースを選択できます。新しいデータ ドリブン テストケースの場合は、Silk DDA Excel データ ソースを選択します。Segue DDA Excel データ ソースは後方互換性のために選択します。これにより、Segue DDA Excel を参照する既存の .g.t ファイルが引き続き機能します。

インストール手順

インストールおよびライセンスの問題については、インストールガイドを参照してください。インストールガイドは、<http://supportline.microfocus.com/productdoc.aspx> から入手可能です。

既知の問題

このセクションでは、Silk Test の既知の問題とその解決策を示します。

全般的な問題

リモート デスクトップまたはリモート デスクトップ接続 (RDC) が最小化されると、Silk Test が機能しない

リモート デスクトップ プロトコル (RDP) 経由でデスクトップに接続している場合、マウスとキーボードを使ってデスクトップに接続することにより、デスクトップの所有権を獲得します。デスクトップの所有権を解放せずにデスクトップを最小化すると、マウス クリックまたはキーストロークの再生がすべて未定義になります。

推奨される構成としては、VMWare サーバーで Silk Test を実行し、VMWare クライアント ソフトウェア 経由で接続します。これにより、クライアントが終了された場合でも再生を継続できます。

Check Point ファイアウォールがインストールされている場合に Open Agent が起動しない

システムに Check Point ファイアウォールまたは Check Point ZoneAlarm ファイアウォールをインストールしている場合は、ファイアウォールが Agent と infoservice 間の通信を中断するために Open Agent を起動できません。

Open Agent を起動するには、システムから Check Point ファイアウォールをアンインストールする必要があります。

Mozilla Firefox を使用した Silverlight アプリケーションのテストがマシンによっては機能しない

Mozilla Firefox で使用した場合、マシンによっては Silk Test での Silverlight のサポートが正常に動作しない場合があります。ホスト Mozilla Firefox プロセスがプラグイン プロセスを呼び出すのと同時に Mozilla Firefox プラグイン プロセスがホスト Mozilla Firefox プロセスを呼び出した場合、デッドロックが発生する可能性があります。詳細については、https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=686861 または https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=558986 を参照してください。Silk Test が .Net Framework をプラグイン プロセスに読み込んで Silverlight をテストしているため、この既知の問題が Silk Test で発生する場合があります。この場合、COM オブジェクトを解放するときにガーベジ コレクションがホスト Mozilla Firefox プロセスで呼び出されますが、Silk Test は .Net Framework がガーベジ コレクションを呼び出すタイミングをコントロールできません。

domDoubleClick メソッドの modifiers パラメータが無視される

domDoubleClick メソッドのオーバーロードで修飾キーを指定できません。パラメータが指定されている場合でも、修飾キーはダブルクリックされません。修飾キーを指定できる domDoubleClick メソッドのオーバーロードは、非推奨です。修飾キーを指定するには、doubleClick メソッド (modifiers パラメータを取るオーバーロード メソッドをサポートするクライアントを使用している場合)、または PressKeys および ReleaseKeys メソッドを使用します。

Microsoft Windows 8 に組み込まれたスペル チェックがテストの再生を妨害する可能性がある

Microsoft Windows 8 に組み込まれたスペル チェックを Internet Explorer 10 のようなアプリケーションで有効化することができます。

記録時に誤ったスペルで単語が入力され、再生時にこの単語が入力された場合、実際のユーザーが行っている場合と同様に、スペル チェック機能はそれがマークしたり、よくあるスペルミスの単語を自動的に修正したりします。スペル チェック機能を持たないオペレーティング システム上でテストが作成された場

合、Microsoft Windows 8 でテストを再生すると予期しない結果になる場合があります。次の手順でスペルチェック機能を無効化することができます。

1. **Windows キー + C** を押します。
2. チャームバー上で、**設定** をクリックします。
3. **PC 設定の変更** を選択します。
4. **全般** を選択して、スペルチェックセクションを表示します（以降、使用中の言語によってスペルチェック機能の有無は異なります）。



注: これは、システム全体の設定で、Internet Explorer 10 固有の設定ではありません。

5. **スペル ミスの語句を自動修正する (Autocorrect misspelled words)** をオフに設定します。
6. **スペル ミスの語句を強調表示する (Highlight misspelled words)** をオフに設定します。

.NET アプリケーションを DevPartner Studio (DPS) から起動すると、Silk Test で認識されないことがある

この問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. Silk Test のインストール フォルダ (デフォルトでは C:\Program Files\Silk\Silk Test) に移動します。
2. Windows Forms アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins\com.borland.fastxd.techdomain.windowsforms.agent_<version number> に移動します。
3. Windows Presentation Foundation (WPF) アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins\com.microsoft.silktest.techdomain.wpf.agent_<version number> に移動します。
4. メモ帳で、ファイル plugin.xml を開いて、<loadparameters> セクションに以下の行を追加します。

```
<param name="frameworkAssembly">mcore.dll</param>
```
5. Silk Test のインストール フォルダの ng\agent フォルダ (デフォルトでは C:\Program Files\Silk\Silk Test\ng\agent) に移動します。
6. メモ帳で、openagent.ini を開いて、ファイルの 1 番目の行として -clean を追加します。
7. コンピュータからログアウトして、再びログインします。DevPartner Studio によって起動されたアプリケーションに対して、Silk Test が期待どおりの動作をします。

イメージ領域に対するクリックの記録時に矩形領域によってハイライトされる位置がずれる

エリアマップのような複雑なイメージの一部に対するクリックを記録する場合、イメージの適切な領域が緑色の矩形領域によってハイライトされません。ただし、再生時にクリックは正しく実行されます。

Google Chrome

Google Chrome の WaitForProperty のエラー

新しいページへの移動を起こす操作を実行したあと、WaitForProperty を使用して両方のページ上に存在するオブジェクトの同期を待つときに、ReplayException エラーになることがあります。この不具合を回避するには、操作を実行し、新しいページ上にのみ存在するオブジェクトで Find を実行したあと、それでも必要な場合に WaitForProperty を実行します。

Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの ログイン および キャンセル ボタンを認識しない

Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの **ログイン** および **キャンセル** ボタンを認識しません。以下の回避策のいずれかを使用して、この制限事項を回避できます。

- テストする Web サイトの URL にユーザー名とパスワードを指定します。たとえば、Web サイト `www.example.com/loginrequired.html` にログインするには、以下のコードを使用します。
`http://myusername:mypassword@example.com/loginrequired.html`
- TypeKeys を使用して、ダイアログ ボックスにユーザー名とパスワードを入力します。たとえば、以下のコードを使用します。

```
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[2]").TypeKeys("myusername")
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[1]").TypeKeys("mypassword<Enter>")
```



注: Control[2] はユーザー名のフィールドで、Control[1] はパスワードのフィールドです。2 番目の TypeKeys の末尾の <Enter> キーで、ダイアログ ボックスのエントリを確認します。

Google Chrome 21、26、27 : Accessibility オブジェクトが無効が見つからない

Google Chrome で Web アプリケーションのロケータを記録しているときに、ダイアログ ボックス内の一部の Accessibility オブジェクトが認識されなかったり、記録されるオブジェクトの階層が無効であったりすることがあります。この問題は、プロンプトや HTTP 認証ダイアログ ボックスなど、すべての JavaScript ダイアログ ボックスに適用されます。既存のテストでこれらのダイアログ ボックスを使用している場合、Google Chrome でそれらのテストを再生するときに失敗することがあります。

OpenTab が Google Chrome で正しく動作しない

Google Chrome でアプリケーションをテストするときに OpenTab を使用すると、Google Chrome のオートメーション インターフェイスが応答しなくなり、Google Chrome の再起動が必要になる場合があります。

Windows で記録中のロケータが Google Chrome で失敗する。

Google Chrome で Web アプリケーションをテストするときに、アプリケーションを実行している Google Chrome インスタンスのアプリケーション構成中に複数のウィンドウが開いていると、Windows で記録中のロケータが失敗します。アプリケーション構成中に他の Google Chrome ウィンドウを閉じると、エラーは発生しなくなります。

バージョン 1.7 より前のバージョンの Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトのテストに Google Chrome を使用できない

これは、Prototype JavaScript Framework の問題で、バージョン 1.7 より前のバージョンのフレームワークでは、配列が正しく JSONified されないために発生します。これにより、Google Chrome テスト環境と Silk Test 実装が依存する Google Chrome の内部 domAutomation オブジェクトが影響を受け、テスト中に Google Chrome が正しく動作しない原因となります。この問題は、Prototype JavaScript バージョン 1.7 以降で修正されています。

Google Chrome を使用して Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトをテストするには、Prototype JavaScript をバージョン 1.7 以降に更新してください。

Google Chrome のバックグラウンド アプリケーションでオートメーション サポートを読み込むことができない

Google Chrome を使用して Web アプリケーションをテストしている場合に、**Google Chrome を閉じた際にバックグラウンド アプリケーションの処理を続行する** チェックボックスがチェックされていると、Silk Test は Google Chrome を再起動してオートメーション サポートを読み込むことができません。

Internet Explorer

Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションの記録に支障をきたす

Internet Explorer 8 で Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションのロケータの記録に支障をきたします。

Google ツールバーをオフにしてから、Web アプリケーションを記録してください。

Microsoft Silverlight アプリケーション

一部の Microsoft Silverlight アプリケーションで、Silk Test との通信の際に Internet Explorer がハングします。32 ビット プラットフォームでは、問題の防止に役立つ MS KB 2564958 (Active Accessibility の更新プログラム) を参照してください。

Silk Test 13.5 より前のバージョンの Silk Test を使用して記録したロケーターが Internet Explorer で動作しない

Silk Test 13.5 で、Internet Explorer の textContents 属性における空白文字の標準化を改良しました。この変更は、Silk Test のクロスブラウザ機能を改善するための措置で、textContents 属性を利用しているロケーターに影響を与える可能性があります。この属性は、Silk Test 13.5 以前のリリースを使用して記録されたスクリプトで使用されています。

Mozilla Firefox

Mozilla Firefox の最新のバージョンで Adobe Flash Player を使用したアプリケーションの呼び出しが正しく同期されない

Mozilla Firefox 13.0 以降で、最新の Adobe Flash Player のバージョンを使用している場合、呼び出しの際に同期が正しく動作しないことがあります。次の問題が発生する可能性があります。

- Mozilla Firefox は実行中のスクリプトをハングしているものと勘違いして、確認ダイアログ ボックスが表示され、スクリプトが正しく実行されているにも関わらずスクリプトの実行を続けるかどうかを尋ねられる場合があります。
- SetFocus が正しく機能しないために文字の入力が動作しない場合があります。
- UI 上では新しい値で更新されているにも関わらず Adobe オートメーションが古い値に戻す場合があります。

Adobe Flash Player を使用したアプリケーションでこれらの問題のいずれかが発生した場合は、Adobe Flash Player の保護モードを無効化してください。詳細については、<http://forums.adobe.com/thread/1018071> の「Last Resort」に記述されている情報を参照してください（日本語訳: http://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/cpsid_93769.html の「F. 問題が改善されない場合」）。

テキスト解決のオフセット値が Mozilla Firefox 17 で誤っている場合がある

Mozilla Firefox 17 では、テキスト解決が正しいオフセット値を使用しない場合があります。この場合、Mozilla Firefox のコンテンツは再描画されません。

テキスト解決が Mozilla Firefox 18 以降で機能しない

Mozilla Firefox 18 以降では、テキスト解決が機能しません。

SAP アプリケーション

SAPTree クラスの HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティが書き込み専用になっている

自動化に関するドキュメントに記載されている場合を除いて、SAPTree の HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティは書き込み専用で、読み込むことはできません。

これらのプロパティを使用する場合、スクリプトで、読み込みではなく、書き込みが使用されていることを確認します。

SAPTree クラスの GetColumnIndexFromName() が「特定できないエラー」により失敗する

SapTree クラスの GetColumnIndexFromName() は「特定できないエラー」により失敗することがあります。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗する

コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗することがあります。

代わりに親コントロールの SelectContextMenuItem を呼び出します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

水平スクロールバーの Position プロパティが常に 1 を返す

水平スクロールバーの Position プロパティは常に 1 を返します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

SAPNetPlan クラスがサポートされていない

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

SAP スクリプトを高速モードで実行すると、再生エラーが発生する

SAP テストを Silk Test Recorder を使用して記録し、**再生速度: 速い** 設定で再生すると、エラーが発生する場合があります。エラー メッセージは、「この操作を完了するのに必要なデータは、まだ利用できません」です。

再生速度をこれより遅い設定に変更します。または、xBrowser ではなく、SAP オートメーションを使用して問題が発生する操作を再生するように、スクリプトを変更します。たとえば、その操作を DomLink.Select から SapHTMLViewer.SapEvent に変更します。

SAPGUI クライアント 7.30 を使用するとメソッド selectCurrentRow が誤った値を返す

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド getCurrentRow を呼び出すと、メソッドは行番号ではなく誤った値 -1 を返す場合があります。

メソッド resizeWorkingPane が SAPGUI クライアント 7.30 で正しく機能しない

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド resizeWorkingPaneEx を呼び出すと、メソッドは workingPane のサイズを変更せずに、getSapWindow().getWidth() の呼び出し結果は、ウィンドウの幅と異なる値を返します。

Silk Test Classic

Silk Test モニターを実行する前に、agent.exe および partner.exe プロセスが強制終了されたことを確認する

Silk Test モニターまたは GUI レベル テストを実行する場合、モニター実行後に Agent.exe または Partner.exe プロセスが正しく終了せず、一時結果フォルダが開いたままになることがあります。モニター実行中にこの問題が発生すると、以降のモニターがすべて失敗し、エラー「LoadtestController: 3302 - 結果ディレクトリをクリアできませんでした」が表示され、クリアされません。

実行サーバー上で Agent.exe または Partner.exe プロセスを手動で強制終了するか、必要に応じて自動的にプロセスを強制終了する必須アクションを作成します。

ウィンドウ クラスをタグを付けずに宣言した場合、不明な動作が発生する

Silk Test でタグを付けずにウィンドウ クラスを実装した場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードでは、tag 行は必須となります。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] tag "[DialogBox]"
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

タグ行が存在する場合、コードは本来の動作をします。ただし、タグ行が存在しない場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードで問題が発生します。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

Silk Test Workbench

大規模サイトでのビジュアル テストの再生

xBrowser の使用中に大規模サイトでビジュアル テストを実行すると、パフォーマンス問題が発生することがあります。この問題を回避するには、**再生 > 結果 > ビジュアル テスト > コントロールのキャプチャ オプション**をいいえ に設定します。

スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示される (31314)

メッセージ ボックスのステートメント (MsgBox ("Hello") など) を .NET スクリプトに含めた場合、スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示されます。

メッセージ ボックスをフォアグラウンドに表示するには、MsgBox ステートメントに MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground を含めます。例：

```
MsgBox ("Hello", MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground)
```

インストーラが SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗する

Silk Test のインストール中またはインストール前に、オペレーティング システムが自動更新を実行するか、またはユーザーが Windows アップデートを行った場合、インストーラは SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗します。

これらの問題は共に、Silk Central Test Manager (SCTM) の統合に影響を与えます。それは、SCTM では SQL Server Express によってインストールされたネイティブ クライアント ドライバを使用して Silk Test Workbench DSN を作成するためです。さらに SCTM は、自動化に COM インターフェイスを使用するには、COM サーバーとして登録された Silk Test Workbench を必要とするためです。

以下の解決策のいずれかを選択します。

1. Windows アップデートの実行中に Silk Test をインストールしない。
2. 使用しているマシンに Windows アップデートが自動的にインストールされないようにする。
3. 保留中の Windows アップデートを Silk Test より先にインストールしてから、システムを再起動し Silk Test をインストールする。

複数の修飾キーを含めるようホット キーの組み合わせを変更すると、追加のキーが記録される

検証の挿入用または記録の開始/停止用に複数の修飾キーを含むホットキーを構成している場合は、修飾キーを押す操作が記録されることがあります。たとえば、Alt+Ctrl+F9 というホット キーの組み合わせを指定した場合、Alt は、ホット キーの組み合わせの一部として無視されるのではなく、キーを押す操作として記録されることがあります。これは、キーから手を離すという対応する操作がないため、再生時に問題になります。

修飾キーに関連するこの操作を手動で削除するか、ホット キーの修飾キーを 1 つだけ使用します。

SQL Server DSN が 64 ビットシステムで動作しない

64 ビット DSN は Silk Test Workbench で使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート > Silk > Silk Test > 管理 > データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:\¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

Silk Test Workbench を起動するのにネットワーク接続が必要になる

Silk Test Workbench を起動するためには、ネットワーク接続が必要です。ネットワーク接続が使用できない場合、エラー「Open Agent との接続に失敗しました」が発生します。他のクライアント (Silk Test Classic、Silk Test Recorder など) を起動する場合には、ネットワーク接続は必要ありません。

Silk Test Workbench を起動する前に、ネットワーク接続が使用可能であることを確認してください。

SQL Server Express を Windows Vista SP1 マシンにインストールできない

Windows Vista SP1 マシンでは、SQL Server 2008 Express をインストールしようとする場合、.NET 3.5 SP1 の完全バージョンがインストールされていることを確認してください。.NET 3.5 SP1 の完全バージョンをインストールするには、Microsoft の Web サイトからダウンロードします。

[画面プレビューから識別] により、移行されたデータベースに不正なオブジェクト マップ項目が作成される

Silk Test Workbench 2010 から Silk Test Workbench 2010 R2 に移行したあと、**画面プレビューから識別** を使用すると不正なオブジェクト マップ項目が作成されます。

画面プレビューから識別 を使用する前に、**画面の更新** コマンドを使用して、画面を再キャプチャします。

子スクリプトが親スクリプトから呼び出されると、子スクリプトはスコープ外のオブジェクト マップにアクセスできる

親スクリプトと子スクリプトが異なるプロジェクトに含まれており、異なるオブジェクト マップを使用している場合、オブジェクト マップが子スクリプトのスコープ外であっても、子スクリプトは正常に実行されます。

スクリプトが正常に実行されるため、解決策は必要ありません。ただし、この動作は今後のリリースでは正常に実行されなくなります。

複数ユーザーが SQL 2008 データベース上で同じ資産を同時に編集しようすると、資産のロック機構に関する問題が発生する可能性がある

問題かどうかをテストするには、ビジュアルテストなどの資産を開いて、Silk Test Workbench で編集できるようにします。資産が開いている間に、Silk Test Workbench の別のインスタンスから同じ資産を開

きます。問題が発生した場合は、Silk Test Workbench の 2 番目のインスタンスで同じ資産を同時に編集できるか、または 2 番目のインスタンスが不完全なデータに関するメッセージを受け取ります。このときユーザー名とマシン名は共に空白になります。

SQL Server で、データベースの管理者権限を、このデータベースを使用する SQL データベースユーザーに割り当てます。

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラーが発生する

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラー「文字列から uniqueidentifier に変換中、変換に失敗しました」が発生します。

エクスポートしたデータベースをインポートし、何らかのエラーメッセージが表示された場合 OK を押しします。インポートは正常に終了し、資産を使用できます。

Access データベースの使用中に予期しないエラーが発生する

Silk Test データベース メンテナンス ツールを使用してデータベースをコンパクト化します。 **スタート > プログラム > Silk > Silk Test > 管理 > データベース メンテナンス** をクリックします。次に、データベースを開き、 **ツール > データベースのコンパクト化** をクリックします。

構成中に UAC が有効な状態で Silk Test Workbench が SQL Server へ接続できない

構成中に管理者権限を持たずに Silk Test Workbench を使用している場合、UAC が有効な状態で SQL Server へ接続できません。

構成中に SQL Server へ接続するには、**管理者として実行** オプションを使用して Silk Test Workbench を起動する必要があります。

リモートの SQL データベースとの接続が失われたときに Silk Test Workbench が異常終了する場合があります

リモートの SQL データベースを使用している場合、データベースが Silk Test Workbench から切断されると (サーバーを再起動した場合など)、Silk Test Workbench がデータベースとの通信を行おうとする際に異常終了する場合があります。

Silk Test Workbench を再起動して、データベースと再接続してください。

[コントロールのキャプチャ オプションが設定されているとビジュアル テストの再生速度が著しく低下する場合があります

再生のパフォーマンスを向上させるには、[コントロールのキャプチャ] を **いいえ** に設定します。

Silk4NET

テストの実行後に TrueLog 結果ファイルが得られない場合、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- テスト クラスに SilkTestClass 属性が含まれている。
- TrueLog ファイルが作成される場所への書き込みアクセス権がある。

再生中に「単体テスト アダプターが例外をスローしました、」というエラー メッセージが表示された場合は、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。

VS2010 で作成された Silk4NET プロジェクトから VS2012 に移行するには、次の手順を実行します。

- VS2012 でソリューションを開きます。
- Silk4NET プロジェクトのターゲット フレームワークを .NET Framework 4.5 に変更します。
- Silk4NET プロジェクトから参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2010.UnitTestingExtension を削除します。
- Silk4NET プロジェクトに参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.UnitTestingExtension を追加します。

オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケーターが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケーター (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のもも含む、より複雑なロケーター (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケーターの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケーター PushButton が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

Silk4J

Silk4J メニューが Eclipse 4.1 で正しく開かない

Eclipse 4.1 で Silk4J メニュー ボタンをクリックしても、メニュー項目が表示されません。これは、Eclipse 4.2 で修正されている Eclipse の問題です。詳細については、https://bugs.eclipse.org/bugs/show_bug.cgi?id=367159 を参照してください。

オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケーターが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケーター (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のもも含む、より複雑なロケーター (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケータの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケータ `PushButton` が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

解決済みの問題

以下の問題が解決されています。

問題番号	説明
RPI 595210	typeKeys メソッドで、自動実行が失敗します。
RPI 1085703	テスト対象のアプリケーションでシステムの他の部分とは異なるロケールが使用されている場合、Silk Test Workbench はテスト対象のアプリケーションに接続できません。
RPI 1085706	複数のエージェントに接続しているか、混合エージェント スクリプトを使用しているアプリケーションを閉じるか再度開くと、Silk Test Classic は「Bad channel to agent call」エラーをスローします。
RPI 1085839	複雑にネストされたスクリプト参照が発生すると、Silk Test Workbench がクラッシュします。
RPI 1085884	Silk Test Classic : Open Agent の SYS_GetFileContents() メソッドでは、Unicode または UTF-8 文字がサポートされません。
RPI 1085962	Difference Viewer に実際の値が表示されず、期待値のみが表示されます。
RPI 1086020	Silk Test Classic : 製品に付属しているレジストリ操作メソッドが、Classic Agent で正しく機能しません。
RPI 1086153	Silk Test Classic : Open Agent が、Adobe Air アプリケーションの FlexTitleWindow コントロールを認識しません。
RPI 1086205	スクリプトが複数回参照されると、Silk Test Workbench がクラッシュします。
RPI 1086286	classname がウィンドウを識別できません。
RPI 1086363	Java SWT : 属性値に単一引用符と二重引用符の両方を持つコントロールが、空のロケータで記録されます。
RPI 1086479	一部の英語以外のシステムで、Silk Test のインストール中に Information Service が削除されます。
RPI 1086563	スクリプトの中で、Silk Test Classic がクラッシュします。
RPI 1086745	Silk Test Workbench : ビジュアル テストに考慮されるブラウザ フック設定が 1 つのみです。
RPI 1087087	エージェント名を (none) に設定すると、Silk Test Classic がクラッシュします。
RPI 1087325	ブラウザ オブジェクトがビューまでスクロールされません。
RPI 1087457	Open Agent を使用してテストを記録または再生しているときに、Java AUT がフリーズします。
RPI 1087461	OnClick 属性が Google Chrome に対して記録されません。
RPI 1087511	プロパティ AllCellTexts および AllCellValues が JTable に追加されません。
RPI 1087650	Google Chrome の使用中に、非表示のフィールドを読み取れません。
RPI 1087697	DLL 呼び出しで、ポインターと適切なサイズ タイプに NULL 値が許可されません。

問題番号	説明
RPI 1087733	末尾のスペースがある場合、Silk Test Workbench での JTree ノードの認識が失敗します。
RPI 1087734	例外ハンドラー付きでコンパイルされている Adobe Flex アプリケーションの開始時に、NULL ポインタの例外が発生します。
RPI 1088056	WPF アプリケーションがスタンドアロン アプリケーションとして開始された場合に、Silk Test が WPF アプリケーションを正しく認識しません。
RPI 1088145	Cisco VPN が Open Agent のコミュニケーションに影響を及ぼします (調整用の改善)。
RPI 1088225	Java アプリケーションの JTextField を記録または再生しているときに、パフォーマンスの問題が発生します。
RPI 1088481	Silk Test Workbench スクリプト内に処理されない例外があります。
RPI 1088549	Borland.SilkTest.WinForms.NativeTechDomain.4_x86 に処理されないアクセス違反があります。
DE3904	SAP eCATT : .NET スクリプトでコンパイル エラーが発生しても、ログが作成されません。
DE3988	Rumba 画面検証が正しく機能しません。
DE4056	
DE4061	
DE3931	テキストが Mozilla Firefox および Microsoft Windows 8 でフォールバックします。
DE4001	項目識別子が正規化されません。ブラウザのバージョンによって、先頭と末尾の空白が異なります。
DE4031	SAP eCATT : 日本語資産用 BLOB のロードが XML 解析エラーで失敗しました。
DE4034	所有者が作成した一部のメニュー項目が、グリフでキャプションとして認識されます。
DE4059	Silk Test Workbench : F8/Step Into がブレークポイントで機能しません。
DE4110	Silk4NET : Open Agent が Team Foundation Server の出力ディレクトリをブロックします。
DE4116	Google Chrome の TypeKeys で一部のキーが再生されないことがあります。
DE4254	Truelog のスクリーンショットが、カラー品質による影響を受けます。
DE4955	記録時に、Internet Explorer 10 がクラッシュします。
TA19985	タブが正常に開かれた場合でも、タブを開く操作が失敗します。
TA20248	すべてのブラウザで、textcontents プロパティの空白が一定になります。
TA22051	Silk Test Classic のクラッシュが Windows Error Reporting Service から報告されます。
TA26707	Internet Explorer でのプロパティの取得が改善されました。

サポート終了コンポーネント

このセクションでは、Silk Test の現在および将来のバージョンでサポートされなくなるオペレーティングシステム、機能、および統合を示します。


Silk Test 14.0 の EOL コンポーネント

以下のオペレーティングシステム、機能、および統合は、Silk Test ではサポートされなくなります。

- Windows ベースのアプリケーション (Classic Agent 上)
- Web アプリケーション (Classic Agent 上)
- ActiveX/Visual Basic アプリケーション (Classic Agent 上)
- Microsoft ユーザー補助 (Classic Agent 上)
- Mozilla Firefox 3.6
- Java SWT 3.5
- Adobe Flex 3
- Internet Explorer 7
- 3.7.2 より前の Eclipse バージョン

以下のブラウザのバージョンは高速リリース版です。これらのバージョンの製品のライフサイクルは非常に短く、新しいバージョンで次々に置き換えられていきます。Silk Test は、開発元のベンダーがサポートする限り、これらのバージョンをサポートします。高速リリース版に対しては、Silk Test で EOL が宣言されてからの猶予期間は通常より短くなります。

- Mozilla Firefox 12
- Mozilla Firefox 13
- Mozilla Firefox 14
- Google Chrome 19
- Google Chrome 20
- Google Chrome 21

 **注:** Silk Test は、Mozilla Firefox の法人向け延長サポート版 (ESR) に対しては通常のライフサイクルポリシーを適用します (Mozilla Firefox 17 など)。

次のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント

以下のオペレーティングシステム、機能、および統合は、次のリリースの Silk Test ではサポートされなくなります。

- Microsoft SQL Server 2005

以下のブラウザのバージョンは高速リリース版です。これらのバージョンの製品のライフサイクルは非常に短く、新しいバージョンで次々に置き換えられていきます。Silk Test は、開発元のベンダーがサポートする限り、これらのバージョンをサポートします。高速リリース版に対しては、Silk Test で EOL が宣言されてからの猶予期間は通常より短くなります。

- Mozilla Firefox 18
- Mozilla Firefox 19
- Mozilla Firefox 20
- Mozilla Firefox 21

- Google Chrome 22
- Google Chrome 23
- Google Chrome 24
- Google Chrome 25
- Google Chrome 26
- Google Chrome 27



注: Silk Test は、Mozilla Firefox の法人向け延長サポート版 (ESR) に対しては通常のライフサイクルポリシーを適用します (Mozilla Firefox 17 など)。

次のリリース後のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント

以下のオペレーティング システム、機能、および統合は、次のリリース後のリリースの Silk Test ではサポートされなくなります。

- Silk Test Recorder。スタンドアロンの Silk Test Recorder は、Silk Test に付属しなくなります。この変更は、Silk Test クライアントの内部的な記録機能には影響しません。
- Microsoft Windows Vista
- Mozilla Firefox 10
- Microsoft Silverlight